

# 木日(612)理事公团文

卷之三

正統編修志稿卷之三

6/12

本日の押野医園にて我方の講演は、おもにその他の事項の  
ことと回り多くのものでした。これは本講習会を  
じつにオーバーに理解して頂いたのであるから終間  
留め事に余るでないのです。講演は前回の発育母  
子問題の範囲を延長又は以此の問題を基に、さらに  
又舟・三〇の教授医園において教示した所から之より  
改組するも、たゞ、大體次起六公に於ける母子問題(医園)  
おほむる大医師議文に従事せられた。やがての間に母養士  
に亘りての現実的母子問題、即ち、母子問題の現実被因索  
の考察、養士に亘りての取扱法(ハリカルヒン)等  
六月十一日(押野医園)が行なわれました。

學校附属臨床医院の裏で、母養士がおやこに行い  
られる所で今日、母養士の母子問題の教示を致して  
いた。即ち、母養士の母子問題に於ける母養士の確  
立の出来上に立ち下る。二十二年生を中心として其明文  
署名運送するもの及びに行き得てある。以て養士の  
現実的取扱法に於ける母養士に一月の運送を展開し  
ゆつては、さうである所である。

現在わづかる組織で般取されることは能く事と云ふが、  
校西護德といつて御取り才を困らるるに就てのもの及び  
ボイシ・ニニアガ母養士の運送を行ひては、既に一月の終  
果を経てつゝある。豊多部再編成の一環としての二月  
自起のものである諸問題に対し構築的に手筋的に終る  
所あつてあるところに付せねばならぬ。

- 理學医にして衛生に追求をす。  
○一般の生活者と接するが、